

2022年3月期全塾協議会定例会議事録

2023年10月7日

全塾協議会

全塾協議会規約 第22条第1項に基づき、2022年3月29日に開催された全塾協議会定例会の議事録を公開する。ただし、役職役名ならびに条数は議会当時のものである。

議事概要記録

名称	2022年3月期全塾協議会定例会
場所	オンライン (Webex)
日時	2022年3月29日 19:00~21:00

出席者

	塾生代表	山田健太
文化団体連盟本部	文化団体連盟三田本部常任委員会 委員長	松尾和真
体育会本部	体育会本部 主幹	菊池龍志
全国慶應学生会連盟		欠席
全塾ゼミナール委員会	全塾ゼミナール委員会 委員長	増馬やよい
四谷自治会	四谷自治会 会長	藤村悠哉
芝学友会	芝学友会 会長	横山さくら
福利厚生機関	福利厚生機関本部 代表	松尾和真
	全塾協議会事務局 事務局長	清瀬竜世
	全塾協議会事務局より他6名	
以下議案提出者	オリエンテーション実行委員会 財務	瀬崎花音
	国際関係会 財務	三國屋レナ
	矢上祭実行委員会 委員長	溝口大智
	矢上祭実行委員会 財務副責任者	溝川結衣
	全塾ゼミナール委員会 財務	西川幸花
	湘南自治会 代表	市川裕也
	湘南自治会 総務局長	五十嵐理子
	湘南自治会 財務局長	古舘凜太郎
	應援指導部 代表	小竹栞
	應援指導部	乃坂龍誠
	應援指導部 チアリーディング部会計	前野あい
	湘南学祭実行委員会 代表	谷口巧
	湘南学祭実行委員会 財務責任者	小西海晟
	慶早戦支援委員会 新委員長	鎌倉有里
	慶早戦支援委員会 新財務	鈴木彩香
	卒業アルバム委員会 編集局長	高橋功太郎

卒業アルバム委員会 委員長 青木満智子
全国慶應学生会連盟 財務補佐 上田憲一郎
塾生会館運営委員会 関田大輝

次第

項目	担当・議案提出者
1. 開会宣言	事務局長 清瀬竜世
2. 塾生代表挨拶	塾生代表 山田健太
3. 定足数確認	議事部長 大澤治香
4. 配布資料の確認	
5. 議事録作成報告	
6. 議長の指名	
7. 議事	
(1) 塾生代表報告 [20220329-01-JSD]	塾生代表 山田健太
(2) 事務局報告 [20220329-02-JMK]	
i. 総務政策部報告	総務政策部長 舟山純平
ii. 財務部報告	財務部長 関田大輝
iii. 議事部報告	議事部長 大澤治香
iv. 広報部報告	事務局長 清瀬竜世
v. 局長報告	事務局長 清瀬竜世
(3) 慶早戦支援委員会の交代報告 [20220329-03-KSI]	慶早戦支援委員会 新代表 鎌倉有里 新財務 鈴木彩香
(4) 湘南学祭実行委員会の交代報告 [20220329-04-SNG]	湘南学祭実行委員会 新代表 谷口巧
(5) 湘南学祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220329-05-SNG]	湘南学祭実行委員会 財務 小西海晟
(6) 全塾ゼミナール委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220329-06-ZZI]	全塾ゼミナール委員会 財務 西川幸花
(7) 国際関係会の独自財源特別支出承認申請 [20220329-07-IIR]	国際関係会 財務 三國谷レナ
(8) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220329-08-SAI]	卒業アルバム委員会 編集局長 高橋巧太郎
(9) 應援指導部の活動報告 [20220329-09-OES]	應援指導部 代表 小林栞
(10) 應援指導部の独自財源特別支出承認申請 [20220329-10-OES]	應援指導部 チアリーディング会計 前野あい
(11) 全国慶應学生会連盟の交付金特別支出承認申請 [20220329-11-ZKR]	全国慶應学生会連盟 財務補佐 上田憲一郎

項目	担当・議案提出者
(12) 湘南自治会の交付金特別支出承認申請 [20220329-12-SJK]	湘南自治会 財務局局长 古館凜太郎
(13) 新歓実行委員会の交付金特別支出承認申請 [20220329-13-SJI]	新歓実行委員会 業務統括責任者 清瀬竜世
(14) 塾生会館運営委員会の団体規約についての報告 [20220329-14-JUK]	塾生会館運営委員会 関田大輝
(15) 卒業アルバム委員会の活動報告 [20220329-15-SAI]	卒業アルバム委員会 委員長 青木満智子
(16) 文化団体連盟本部の所属団体処分移転資金についての報告 [20220329-16-BRH]	文化団体連盟本部 委員長 松尾和真
(17) 矢上祭実行委員会の交代報告 [20220329-17-YGM]	矢上祭実行委員会 委員長 溝口大智
(18) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案 [20220329-18-JMK]	全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世 矢上祭実行委員会 委員長 溝口大智
(19) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案 [20220329-19-JMK]	全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世 矢上祭実行委員会 委員長 溝口大智
(20) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案 [20220329-20-JMK]	全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世 矢上祭実行委員会 委員長 溝口大智
(21) 全塾協議会事務局の性暴力防止のための活動に関する議案 [20220329-21-JMK]	全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世
(22) 塾生代表の2021年度全塾協議会第三次補正予算 [20220329-22-JSD]	塾生代表 山田健太
(23) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案 [20220329-23-JMK]	全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世 矢上祭実行委員会 委員長 溝口大智
8. 連絡事項	塾生代表 山田健太
9. 閉会宣言	事務局長 清瀬竜世

議決事項

議案識別子	提出者	議案名	可否
20220329-01-JSD	塾生代表	業務報告	採決なし
20220329-02-JMK	全塾協議会事務局	業務報告	採決なし
20220329-03-KSI	慶早戦支援委員会	交代報告	採決なし
20220329-04-SNG	湘南学祭実行委員会	交代報告	採決なし
20220329-05-SNG	湘南学祭実行委員会	独自財源特別支出承認申請	可決
20220329-06-ZZI	全塾ゼミナール委員会	独自財源特別支出承認申請	可決
20220329-07-IIR	国際関係会	独自財源特別支出承認申請	可決(修正)
20220329-08-SAI	卒業アルバム委員会	独自財源特別支出承認申請	可決
20220329-09-OES	應援指導部	活動報告	採決なし
20220329-10-OES	應援指導部	独自財源特別支出承認申請	可決
20220329-11-ZKR	全塾慶應学生会連盟	交付金特別支出承認申請	可決
20220329-12-SJK	湘南自治会	交付金特別支出承認申請	取り下げ
20220329-13-SJI	新歓実行委員会	交付金特別支出承認申請	可決
20220329-14-JUK	塾生会館運営委員会	団体規約についての報告	採決なし
20220329-15-SAI	卒業アルバム委員会	活動報告	採決なし
20220329-16-BRH	文化団体連盟本部	所属団体処分移転資金についての報告	採決なし
20220329-17-YGM	矢上祭実行委員会	交代報告	採決なし
20220329-18-JMK	全塾協議会事務局	所属団体に関する議案	否決
20220329-19-JMK	全塾協議会事務局	所属団体に関する議案	可決
20220329-20-JMK	全塾協議会事務局	所属団体に関する議案	採決なし
20220329-21-JMK	全塾協議会事務局	性暴力防止のための活動に関する議案	取り下げ
20220329-22-JSD	塾生代表	2021年度全塾協議会第三次補正予算	可決
20220329-23-JMK	全塾協議会事務局	所属団体に関する議案	否決

2023年9月30日 議事録作成

全塾協議会事務局 事務局長 清瀬竜世

(署名)

全塾協議会規約第22条に基づき、事務局長の署名は省略する。

この議事録が正確であることを証する。

塾生代表

山田健太

(署名)

山田 健太

全塾協議会 議長

横山さくら

(署名)

2023年10月7日付で議事録を真正なものであると確認した。

議事詳細記録

1. 開会宣言

事務局長 清瀬竜世が開会を宣言した。

2. 塾生代表挨拶

塾生代表 山田健太が挨拶を行った。

3. 定足数確認

議事部長 大澤治香よる点呼により、定足数を満たしたことが発表され、本会の成立が確認された。

4. 議事確認

議事部長 大澤治香が、既に配布された資料の確認を行った。

5. 議事録作成報告

議事部長 大澤治香は2021年12月分のチェックを進行中であると述べた。また、残りの議事録は未作成であり、局員に過度の負担を与えず進めていくことを報告した。

6. 議長の指名

議事部長 大澤治香は、全塾協議会規約 第10条に基づき議長の選任方法を諮ったところ、満場一致で芝学友会代表 横山さくらが議長に選任された。

7. 議事

(1) 塾生代表からの業務報告

まず、3月の頭に塾長と面談をし、ご協力いただく話し、事務局長や学生総合センター長とも認識を共有したことを報告した。また、リーダーズキャンプを実施し、異例の時期だったため予算折衝をしっかりと行ったうえで実施した旨を伝えた。さらに、先月にも話が上がった処分の執行状況をしっかりと進めていく旨、特別委員会である新歓実行委員会での新歓実施についてはぎりぎりとなってしまったが対面で開催できるようになった旨を報告した。最後に議会全体に向けて、最終項で提出した第三次補正予算については重要な書類なのでしっかり目を通すように伝えた。

(2) 事務局からの業務報告

i. 総務政策部報告

各種面談への参加をしたことを報告した。また、参加団体へ向けたワークショップや Safe Campus の調整を行ったことを報告した。加えて、事務局内の資料の整理や、特別委員会への人員拠出を行ったことを報告した。

ii. 財務部報告

特別支出許可番号の発行作業を行ったと報告した。加えて財務講習会スライドの改訂作業を行ったと報告した。また、3月締め財務講習会の実施を行ったことを報告し、4月の財務講習会は4月16日に実施すること、また日程調整の締め切りは3月31日であることを伝えた。さらに、12月締めの団体決算書類の紙媒体の回収を行い、文化団体連盟本部・全国慶應学生会連盟・湘南学祭実行委員会の一部書類を除き完了、K-Projectは明日回収予定であることを報告した。加えて、自治会費交付金の振込（後期）確認及び、クラウドファンディングに関する通知の実施を行ったことを報告した。また、センター長面談の資料作成を行ったことを報告した。

iii. 議事部報告

定例会の準備及び運営を行ったと報告した。また、決議書や登記書類など書類関連の回収管理を行ったと報告した。また、交代関連、議案提出関連のメール対応を行ったことを報告した。加えて、前年度議事部長から今年度担当者へ業務説明や引継ぎを行ったことを報告した。他にも、登記事項確認書のGoogle form化について、作業が完了したため、新年度から運用予定であることを伝え、登記事項確認書以外の書類の電子化や紙媒体と併用するか否か等を検討中であると報告した。

iv. 広報部報告

2月定例会議決内容のツイート、及び3月期定例会のWebサイト更新を行ったことを報告した。また、事務局内の新歓企画の統括（記事改修、説明会準備）を行ったことを報告した。加えて、説明会を実施したことを報告した。他にも、新歓企画やSafe Campusなどのツイートを行ったことを伝えた。

v. 事務局長報告

局内資料のチェックと整理を行ったことを報告した。また、各種面談への出席、及びセンター長面談・塾長表敬訪問への出席を行ったことを報告した。加えて、局長面談を実施したことを報告した。

(3) 慶早戦支援委員会の交代報告

慶早戦支援委員会より交代報告が上程され、新代表に鎌倉有里、新財務に鈴木彩香が就任した。鎌倉有里から「新代表です。よろしくお願いします。」と述べられた。それに対して、塾生代表の山田は「慶早戦支援委員会は直近活動が行えていない。これから対面が増えていくと思うので、委員長と財務でコントロールをよろしくお願いします。」と伝えた。

(4) 湘南学祭実行委員会の交代報告

湘南学祭実行委員会より交代報告が上程され、新代表に谷口巧が就任した。谷口巧から「新代表です。前任代表から辞任の申し出があったため、交代しました。よろしくお願いします。」と述べられた。それに対して、塾生代表 山田健太が「もともと谷口さんが就かれていた副代表はどのようになったか」と問い、谷口巧から「選挙して選びました」と回答を得た。

(5) 湘南学祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請

湘南学祭実行委員会より独自財源特別支出申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥24,376	事前	Adobe ソフトウェア費	七夕祭実施にあたり、デザイン業務を行うため	2022 年 4 月中盤

湘南学祭実行委員会会計 小西が、独自財源特別支出申請の説明を行った。小西は「デザイン業務の為の Adobe ソフトウェアのアカウントを、先月は 4 つ、4 月から 8 つに増やしたい。Adobe のセールは今月までであり、メールアドレスの管理の都合上、3 月末までに支出する目途が立っていないので、この金額でお願いします。」と説明した。それに対し、塾生代表 山田健太は 4 月のいつくらいに支出予定で、いつまでかと質問した。これに関して、小西は、支出予定は 4 月中旬頃、7 月までの予定であると回答した。山田は、「今払えば 1738 円が 7 月まで続くのか」と問い、最大限 31 日までで善処し、合計で安くなるようにとお願いをした。

また、山田は、アカウントを 8 つ追加する根拠についての説明を求めた。それに対して小西は、「1 年生新入生の分。現在デザイン担当が 10 名ほどおり、次期 2 年が 4 つ必要としていて、次期 1 年も 4 つと考えて計 8 つに。」と説明した。これに対して、山田は、対面が広がる中で、メディアなどのソフトを使う手もあるがそれは検討したか確認した。加えて、「今回はいいが、団体内で数について再度検討してほしい。今まではキャンパスに行くのもままならなかったので積極的に認めていたが、これからは授業も対面が多い。1~3 年で構成される委員会なので、不必要な分は削減してください。」とお願いした。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(6) 全塾ゼミナール委員会の独自財源特別支出承認申請

全塾ゼミナール委員会より独自財源特別支出申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥3,126	事後	お菓子代	2021 年度三田祭講演会における 4 学部合同講演会における運営費用	2021 年 11 月後半
2	¥3,326	事後	お菓子代	2021 年度三田祭講演会における 4 学部合同講演会における運営費用	2021 年 11 月後半
3	¥1,758	事後	楽屋の備品	2021 年度三田祭講演会における 4 学部合同講演会における運営費用	2021 年 11 月後半
4	¥4,045	事後	講演者様使用の小道具代	2021 年度三田祭講演会における 4 学部合同講演会における運営費用	2021 年 11 月後半
5	¥4,793	事後	講演者様使用の小道具代	2021 年度三田祭講演会における 4 学部合同講演会における運営費用	2021 年 11 月後半

全塾ゼミナール委員会財務 西川幸花が独自財源特別支出申請の説明を行った。西川は「全項目事後申請です。申し訳ございません。申請内容は 21 年の三田祭 4 学部合同講演会関連、以前承認いただいたものに加え、立て替えていたことが分かった講演者用の小道具などである。」と説明した。塾生代表 山田健太は、全塾ゼミナールの支出フローについて確認し、「この手のもので承認が遅くなると心象が悪い。遅

すぎるものは団体内の確認の段階で承認しないといた選択肢があるとよいかもかもしれない」と伝えた。加えて、今後はできる限り事前申請するようお願いした。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(7) 国際関係会の独自財源特別支出承認申請

国際関係会より独自財源特別支出申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥4,400	事前	Zoom プロプラン契約の代金	オンライン新入生歓迎イベント実施のため	2022年4月・5月

国際関係会財務 三國谷レナが、独自財源特別支出申請の説明を行った。新歓の際の通信費として、Zoom のプロプラン2ヶ月分として申請し、無料で使える40分では区切りが悪いこと、ブレイクアウトルームといった設定が出来ること、使い慣れていることをZoom でなければならない理由として説明した。これに対し、塾生代表 山田健太は「しっかり活用してどのくらい使ったのか報告して欲しい」と伝えた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(8) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請

卒業アルバム委員会より独自財源特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥618	事後	昼食代	塾長インタビューのため	2022/3/17
2	¥300	事後	印刷代	出金伝票印刷代	2021/12/16

卒業アルバム委員会編集局長 高橋が代理で独自財源特別支出申請の説明を行った。高橋は「毎回慶早戦等の撮影を行なっていますが、この時期は特に撮影はなかった。事後申請となり申し訳ございません」と述べた。また、塾長インタビューを外部の方と委員1名でサポートしたことを説明した。加えて、2月分の入力ミスを修正したいと報告した。これに対して塾生代表の山田は「いつもと申請内容は同じ、問題ない」と返答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(9) 應援指導部の活動報告

應援指導部代表 小竹栞より、活動内容が報告された。卒業式アルバイトを例年以来しており、参加したことを報告した。コロナ禍で参加できていなかったが、今年度は緩和され、吹奏楽団が演奏したこと、練習は感染対策の下、対面で行われたことを伝えた。また、意思決定の場である執行部会、定例会、役員会をいつも通り行ったと報告した。加えて、今月から新たな試みを追加し、各種渉外、馬術部の創部100周年、軟式野球の応援を行ったと報告した。ほかにも、再建活動のためにチアの練習に旧リーダーや部門非所属部員が参加したことや、「塾生、慶應義塾を盛り上げる」というコンセプトを設定したことを報告した。これに対し、塾生代表 山田健太は毎月同じことを繰り返すのではなく、他の月だとなかなか起き

ないことは積極的に報告してもらおうのがよいと伝えた。

(10) 應援指導部の独自財源特別支出承認申請

應援指導部チアリーディング部会計より独自財源特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥47,550	事後	1月分コーチ代	技術向上、及び安全の為のテクニカルコーチ代として	2022年2月
2	¥114,900	事後	2月分コーチ代	技術向上、及び安全の為のテクニカルコーチ代として	2022年3月
3	¥221,900	事前	3月分コーチ代	技術向上、及び安全の為のテクニカルコーチ代として	2022年4月

應援指導部チアリーディング部会計 前野あいより独自財源特別支出承認申請の説明を行った。前野は「一部事後申請申し訳ございません」と述べた上で、3月、1月、2月のコーチ代の承認をお願いした。塾生代表 山田健太の「前年度申請なしとあるが、これはなぜか」という問いに対し、前野は「コロナでやっていなかった。今年度からオフを減らして練習」と回答した。これに対して山田は「独自なので良いと思うが人件費は高額なので、不必要に使用しないよう」と伝えた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(11) 全塾慶應学生会連盟の交付金特別支出承認申請

全塾慶應学生会連盟より交付金特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥4,893	事後	名刺代	今年度の対面活動(イベント等)の開催において、その関係者とお会いした際に使用するため	2022年2月中旬

全塾慶應学生会連盟財務補佐 上田憲一郎が、代理で交付金特別支出承認申請の説明を行った。上田は、新常任理事7名の名刺代と説明した上で、「事後申請となり申し訳ございません。承認お願いします」と伝えた。これに対して塾生代表 山田健太は、昨年どのくらい使用したかと問い、「対面が増えていくのでいいと思うが、何枚くらい必要かデータとってもらって、来年度以降に活かしてほしい」とお願いした。加えて、山田は「使い切れるようにバンバン使ってください」と伝えた。事務局員の関田大輝は、「今後は贈答品費で記載してください」とお願いした上で、使用場面の想定についても質問した。上田は関係者にお会いした際に使用すると述べた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(12) 湘南自治会の交付金特別支出承認申請

湘南自治会より交付金特別支出承認申請が上程された。

湘南自治会財務局局長 古舘はスタートアッププロジェクトについて、新入生を対象にサポートを行う一環として行う旨、具体的な内容として、在校生と新入生からなるメンターグループを作成し、新入生の不安を解消することを目的とする旨を述べた。開催形式はオンライン・オフライン併用で、新入生最大5人、上級生2名の最大七人のグループで行うとした。

申請内容 詳細は以下の通りである。

1. キャンパスから湘南台までの交通費 37 人分。最大 5 グループ (35 人)、運営サポート 2 人で 37 人、新入生が 25 人参加した場合の金額だから、今後減少する可能性もある。
2. ボードゲームをすることができる施設。その参加費用。2 人を除いた 35 人の申請。
3. 感染対策費用として、予備として各グループ 5 枚、消毒スプレーも各グループに 1 本
4. スタートアップの保険費用、37 人の場合、この費用になる。参加人数が確定していないため、今後減る可能性もある。まだ申請していない。

山田は 2 番目について、どうして出すことになったのか、経緯を説明するよう求めた。湘南自治会総務局長 五十嵐は「基本的にオフラインイベントの流れとして、SFC で各ミッションを行ってもらおう。大学内だけを回って話すことに限度があると考えた。SFC とその周辺地域に馴染んでもらう。レクリエーションを行いたいと考えた。新入生にも湘南台周辺地域にも馴染んでもらおう、という理由から施設を利用するに至った。」と述べた。

山田は、「何を懸念しているかということ、42000 円くらいをかけて、25 人くらいを対象としている点である。1 人 1600 円くらいになる。これがピンポイントにこの人たちに関わるのはわかるが、それ以外の人にどれくらいメリットがあるのかを懸念している。遊んで滞在する費用を 25 人に宛がうというのが、果たしてどれだけ全体としてのメリットにつながるのか。これからのこの先の展望はあるのか。」と指摘した。

五十嵐は山田の指摘に対し、「本来なら食事を介してコミュニケーションをとるなどがあったと思う。しかし、コロナ禍で無くなってしまった。一定の学生だけでも体験してもらおう。これからその子たちが SFC 内でさらに湘南台の魅力を広めていってほしい。」と述べた。

山田は、「1 人から 1000 円回収するとかはダメなのか。大学生なので 1000 円も出せないと言った人はあまりいない。保険とかは企画を成り立たせるために必要なのはわかる。でも遊び場については、個人で負担するべきだという意見もある。そのような意見がある中で、無料にこだわる必要はあるのか。」と質問した。古舘は「場合によっては合計金額を上回ってしまうこともある。600 円は払ってもらって、交通費も各自で払う。」とした。

山田は「全てこちらで出したにもかかわらず、遊ぶためだけに行くということも起こりうる。それはあまり良くない。」と見解を述べ、今月承認しなければならぬのかと述べた。

関田は湘南自治会に対し、支出はいつであるか質問した。古舘は、保険は 4 月 29 日入金であるため、できれば今月中の承認をいただきたいとした。関田は支出の同月もしくは翌月であれば、事後申請も可能である旨を示した。山田は、今月期で申請は一回出してもらっているため、4 月期に持ち込むという方針にするのが良いのではないかと述べた。加えて、今回の申請に関する承認のパターンは幾つかあると思うので、そこを突き詰めて検討した方が良いのではないかと思う、後でお話しする機会を作ると述べた。

塾生代表 山田健太は本議案を取り下げた。

(13)新歓実行委員会の交付金特別支出承認申請

新歓実行委員会より交付金特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥400,000	事前	手提げ袋代	入学式において新入生にパンフレットとピラを配布するため	2022年3月31日

新歓実行委員会業務統括 清瀬竜世が、交付金特別支出承認申請の説明を行った。算出根拠は、40 円/枚×7,000 枚+データ確認費 1,000 円×1.1(消費税)=309,100 円（なお、金額は確定ではないため、余裕をもって申請している）であり、入学式でパンフレットやピラに使用すると説明した。塾生代表 山田健太は、「新入生に関するものなので、額面としてはいいと思う。大学のオリエンテーションの冊子もあり、かばん等何も持ってこない生徒もいるので必要と判断する」と伝えた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(14) 塾生会館運営委員会の団体規約についての報告

塾生会館運営委員会より団体規約についての報告が上程された。

担当者の関田より、「誤植の訂正については、内容自体は修正がなく、委員の上限数を増やした点、変更点である」との説明があった。塾生代表 山田健太より、上限数を増やした理由を問われ、関田は「委員に上限数を設ける理由もないため、1人あたりの負担を減らすために変更する」と答えた。対して山田は、そもそも14人という上限数がなぜ設けられていたか質問した。関田は、「把握していない。最低限の人数を合わせると14人になるからだったからだろう」と答えた。山田は、上限数が何らかの意味があって設けられている可能性を考え、今後知る機会があれば把握するように、と関田に指示を出した。

(15) 卒業アルバム委員会の活動報告

卒業アルバム委員会青木は、活動報告として、塾長にインタビューを行ったことを報告した。

(16) 文化団体連盟本部の処分資金移転について

文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾和真が、処分資金移転にかかる支出一覧についての説明を行った。「マスクは、感染対策に関して、委員が部室で活動するときのためのもの。ホワイトボードはないと不便なため申請。ゲーミングチェア1台がカビてしまったため買い替えを申請。飲食費は、いつも働いてくれる委員に還元しようという考えに基づき、懇親会における食費にあたる。追加で、振り込み手数料があるため、当初の71003円と合わせて残金は65円になる」と説明した。

塾生代表 山田から、交流会とは何か質問があった。松尾は「定例会くらいしか顔を合わせる機会がないため、委員間の交流を増やそうと、オンラインで12月に開催するもの」と説明した。山田は「各自後払いで支払うものなのか」と質問。対して松尾は、「そうです。しかしまだ支払いはしていない。」と返答した。

事務局員 関田は、昨年9月の承認で、「残金65円について、少し多めに買って、残りを個人で処理するのが良い」と結論付けられていたことを示し、これを松尾に求めた。松尾は、振込に関してあまり検討していないことを伝えた。山田は、「LINEペイやPayPayを使っている人もいるだろうから、領収書を切っていない状態は良くない。銀行振込を希望する人に対し、銀行振込を行うことで、65円が解消できる

のではないかと提案した。

(17) 矢上祭実行委員会の交代報告

矢上祭実行委員会より交代報告が上程された。

新任者は以下の通りである。

2022 年度 代表	理工学部 応用化学科 2 年 溝口大智
2022 年度 財務責任者	理工学部 応用化学科 2 年 松下香穂
2022 年度 財務副責任者	理工学部 数理科学科 2 年 溝川結衣

新代表溝口は、ミスコンや食事関連、300 人体制の団体が故に見逃されている問題、委員の満足度にばらつきがある問題に対して、特に力を入れて取り組んでいく旨を報告した。また、他の役員の交代報告について、新財務責任者 2 人は、以前の定例会で交代の報告を完了していることを説明した。

山田は、福利厚生団体として、矢上祭実行委員会として、周りにどのような価値を提供できるかよく考えながら、活動に取り組むようにと伝えた。

(18) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案

全塾協議会事務局より所属団体に関する議案が上程された。

事務局長 清瀬竜世は、18、19、20 番項はいずれも矢上祭実行委員会に関する話であるが、18 番項では矢上祭実行委員会の会食の件に対し 1 月期定例会で下した処分の内容を取り扱うと説明した。処分のうち全塾協議会の承認を得ることを必要としていた 2 番項について、矢上祭実行委員会委員長に説明を求めた。

矢上祭実行委員会委員長 溝口大智は、2 月期定例会で前財務責任者 相原が説明した内容について簡単に説明するとした。「現在矢上祭実行委員会は LINE を使って委員同士のやりとりをしているが、執行部や局、企画別のグループすべてに自らを含めた執行部のメンバーが加入して全ての連絡を見ることが出来る状態にする」と説明したのが 2 月期定例会で、それでは不十分だというご指摘をいただいたため、再度矢上祭実行委員会の執行部で検討させていただいたと説明した。そのうえで、塾生会館運営委委員会や全塾協議会もそうであるように、矢上祭実行委員会も今年度から Slack を使って委員同士のやりとりをしようと思うと述べた。内容としては前回と大きくは変わらず、LINE でやろうとしていたことを Slack でやるというイメージだとしたうえで、繰り返しにはなるが、Slack でそれぞれの局や企画ごとのグループをつくり、その中に執行部全員が入ることでやりとりを監視していくと説明した。

塾生代表 山田健太は、Slack は既に導入したのかと質問した。溝口は全塾協議会からの承認をいただいてから導入すると述べた。執行部では不便がないかを調べるために導入し、現在執行部の 7 人で使っているが、今まで通り不自由なく連絡ができていたため、承認がいただけたら矢上祭実行委員会全体に広げるつもりだとした。

山田は、今はとりあえず無料版で使う予定かと質問した。溝口はそうだと述べた。

山田は、無料版での制限は理解したうえで大丈夫だという判断かと質問した。溝口はそうだと述べた。執行部は矢上祭の仕事関連の連絡も多く、他の局や企画よりも連絡の頻度は多いと思うが、特に不自由

なく1か月程度使えたため大丈夫だと思っているとした。

山田は、懸念点として、LINEは1週間ぐらいたったファイルは消えるもののメッセージは基本的には消えないが、Slackの無料版の場合ワークスペース単位で1万メッセージを超えると消えてしまうと述べた。私の知る限り、祭りの団体だと1年活動すると最低でも2万件ぐらいはやりとりをしている印象があるため、前半のものが見えなくなってしまう可能性があるが、この点は問題ないかと質問した。

溝口は、1か月使ってみただけであり、そこまで考えが至っていなかったため、一旦持ち帰らせていただいて執行部のほうで再度協議したいと述べた。

山田は、Slack自体は今色々なところで試していただいている限りの評価としてはかなりいいツールだと述べた。LINEと違い通知を重みづけしやすいほか、招待が非常に楽であるため良いのではないかとしたうえで、2点持ち帰って改めて協議していただきたいとした。

1点目としては有償版と無償版による差分を考えてほしいということである。矢上祭実行委員会の活動が活発化するの7月ぐらからかと確認した。溝口は、6月あたりから企画内容を練り、本格的に活動し始めるのが夏休みなのでおっしゃる通りだと述べた。山田は、例えば一時的に6、7月から9月までや7月から10月までというように、限定的に課金をするという選択肢もあると述べた。または恒常的に課金をするが部費を改めて追加で徴収するという方法もあるため、こういったことを含め有償版、無償版のグレードについて検討していただきたいとした。

2点目として、起きてしまったら一番よろしくない現象は、執行部の方が基本的に全部見ることができるSlackに対し、あえてLINEで業務のやりとりをし始める委員が現れることだと述べた。それを防止する施策についても検討していただいたほうが良いとした。基本的に方針に問題はなく、Slackの導入に向けて進めていただきたいとは思っているが、今一度この2点については持ち帰っていただきたいと強調した。溝口はかしこまりましたと述べた。

議長 横山さくらは、承認は今日中にとるかかと質問した。山田は、いつまでにとらなくてはいけないということはないとしたうえで、矢上祭実行委員会の活動が活発化する6、7月になっても承認がとれていないと困るが、ここはむしろ慎重を期してしっかりと承認をとるのがいいのではないかと思うと述べた。

横山は、持ち帰ってまた来月期にご報告いただくという形で大丈夫かと確認した。

清瀬は、矢上祭実行委員会の方に確認したいことがあるとし、処分の2番項が承認されないと3番項も必然的に承認できず、キャンパス外での対面活動が行えなくなるが、今後4、5月あたりにそういうことを行う予定はあるかと質問した。溝口は、4、5月で学校の外で大きなイベントをする予定は今のところなく、情勢的にも合宿のようなことはできないため、それに関しては問題ないと述べた。清瀬は、それならば大丈夫だと思うと述べた。

山田は、補足として、処分の3番項でかかっている活動というのは、合宿やミスコン関係のことだけではなく、細やかな渉外活動も含んでいると述べた。矢上祭実行委員会として溝口さんや渉外を担当している局員の方が外出することも含め指しているということを確認しておいていただきたいとした。溝口はかしこまりましたと述べた。企業との渉外案件に関しても、今のところ情勢により基本的にZoomでのミーティングであるため大丈夫だとした。山田は、それならば問題ないと思うと述べた。

また横山に対し、十分だという意見もあるかもしれないため、一応議員の方に聞いていただきたいと述べた。横山は、一人ひとり回して意見を聞いていくのではなく、意見のある人に聞く形で良いかと質問した。山田は、それでもいいが、簡単に言えば18番項について十分だと思う人は賛成、もう一回考え直したほうが良いと思う人は反対にしてもらえばいいのではないかと述べた。

横山は、Slack でやっていくということで十分か、または、課金云々という話をもう一度聞いてから話したほうがいいのか、ということを確認する形かと質問した。

山田は、横山の確認に加えて Slack を使いたがらない人が一定数いるため、結局 LINE も使ってしまうむしろ逆に見えない化が進んでしまうという事例も多々聞くのが懸念事項だと述べた。Slack を使うのが面倒だからと、あるチームやグループだけ LINE で話してしまおうということをされると、執行部の人がむしろ見えなくなってしまうといったことが往々にして起きてしまいがちだと説明した。特に人数が多ければ多いほど起きやすく、それをいかに防止するかを考える必要があるとした。

例えば、直接上司にあたるようなポジションの人が、コミュニケーションを Slack でとっているかを定期的に確認する。それをそれぞれの上司にあたる人が、適切なツールでコミュニケーションをとっているか、つまり LINE でやりとりして Slack でもやりとりしているために会話がとびとびになっているような気がする、といったことが起きていないかどうかをしっかりと確認していくことが必要だと述べた。重ねて定期のミーティングで私用以外では LINE を使ってはいけないということを繰り返し伝えるといったことを施策として検討していただきたいと強調した。そのうえで、Slack を実験的に使っていくという側面は良いことだと思うので、この連絡ツールを検討する期間は今の連絡ツールから変えてはならないということは特に処分案には書いていないし、完全に Slack に移動していただいても LINE や Discord 等何を使っていたとしても別に構わないというのが私の認識だと述べた。

横山は、Slack に変えるという方針で矢上祭実行委員会はやっていくと思うが、それで十分だという人は賛成、さらに見えない化が進まないようにするための防止策等を聞いてからのほうがいいのかという人は反対という形で良いかと確認した。山田は、そちらのほうが分かりやすく良いのではないかと述べた。一回一回議案を取り下げる方式はあまり良くないと思うので、しっかりと記録を残す方式にしたいとした。

横山は、矢上祭実行委員会はそれで良いかと確認した。溝口は大丈夫だと述べた。

横山は、Slack に変えるということだけで承認しても良いという方は賛成、もう少し防止策等を聞いてから承認するほうが良いという方は反対という形で議決をとると述べた。全塾協議会全会一致で否決した。

横山は、来月期また防止策等を聞いてから改めて承認という形で確認した。

山田は頑張ってくださいと述べた。横山は、来月期もまたよろしく願いいたしますと述べ、溝口はかしこまりましたと述べた。

清瀬は、こちらについて、次回からは定例会の前に議案提出締め切り日というものがあるため、その前ぐらいまでにメールなどで書面をいただくと大変助かると述べた。溝口はかしこまりましたと述べた。

(19)全塾協議会事務局の所属団体に関する議案

全塾協議会事務局より所属団体に関する議案が上程された。

事務局長 清瀬竜世は、19 番項では矢上祭実行委員会の契約の件に対し 1 月期定例会で下した処分の内容を取り扱おうと説明した。処分のうち全塾協議会の承認を得ることを必要としていた 2 番項と 3 番項について、矢上祭実行委員会委員長に説明を求めた。

矢上祭実行委員会委員長 溝口大智は、処分の 1 番項の内容について、前回の定例会で矢上祭実行委員会のほうから説明することができず申し訳ないと謝罪した。この原因について以下の通り説明した。会

食の件に関しては矢上祭実行委員会の屋外局が起こした問題で、自身も詳しく話すところではないので割愛させていただくが、深く関わってはいなかったものの会食の存在自体は知っていたという立場であるので責任を深く感じている。この件に関しては自身が進んで話を進めていたので、締め切りまでに間に合うことができた。一方でミスコンの件に関してはステージ局に関係する問題であり、問題が発生したのは前年の矢上祭実行委員会である。もちろん新しく代表になった自身が全ての内容を把握しているべきではあるが、力不足でできておらず、誰がこの問題を担当するかが委員会内でしっかりと分担できていなかったために、ミスコンの件に対する改善点を説明するのが遅れてしまった。

溝口は、お詫びさせていただきたいと再度謝罪した。処分の第2項に関して、内容についてはスライドに書かれていることを読んでいただきたいとしたうえで、全体的なイメージとしては、一般委員から企画長へ、企画長から局長へ、局長が執行部と役員が集まる役員会にて、委員長である自身に契約について説明し、自身が承認し、さらに降ろしていくという形だと説明した。最終的には一般委員と自身が立ち会った状態で契約を承認するという段階的な流れにもっていけるような対策を考えたとした。こちらについて審議していただければと思うと述べた。

塾生代表 山田健太は、基本的にはこの方針で結構だが、記録をしっかりと残すやり方を決めておいてほしいと述べた。つまり、どの委員がどのように報告をして、誰がその報告を受けて、それをどの会議で共有して、委員長が承認した、というフローを後ほどしっかりと提示できるように記録残しをしていただきたいとした。方針・やり方としては、私はこれ以上に良いものはなかなかないだろうと思うと述べた。例えば電話で委員と局長が簡単にやりとりするだけでは認識の齟齬が生まれる可能性があり、契約内容は一言一句で変わることもあるとしたうえで、しっかりと文言でやりとりしていただく、むしろ積極的に文言を推奨していくぐらいの意志でやっていただければというのであれば、この方針でいいのではないかと強調した。溝口に対し、それは徹底できそうかと質問した。溝口は、文面で残すということは徹底していこうと思うと述べた。

山田は、各種契約の一覧の記録をスプレッドシートなどにまとめていただく等の取り組みも行うと良いかもしれないと述べた。いつ時点で委員長が承認したのかがフローになっていて、契約内容など一覧になっているようなものがあれば、同じレギュレーションで承認することもできると思うので、その方向で進めていただければと思うとした。溝口はかしこまりましたと述べた。

山田は、処分の2番項と3番項について承認の可否の判断が分かれた場合議決がとりにくくなるのではないかと述べた。

清瀬は、今から議案を追加し、処分の2番項と3番項については別々に取り扱おうと述べた。

山田は、とりあえず処分の2番項についてだけ議決をとろうと述べた。

議長 横山さくらは、処分の2番項について議決をとると述べた。

山田は、条件付きとして文面でやりとりを残すという前提はつけさせていただきということでよろしいかと確認した。溝口は大丈夫だと述べた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、山田は本決議を承認した。

清瀬は、最後に1点よろしいかとしたうえで、塾生代表から加えられた条件を先ほどの資料に追加し、その資料を再度送っていただくことは可能かと質問した。溝口は可能だと述べた。

(20) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案

全塾協議会事務局より所属団体に関する議案が上程された。

事務局長 清瀬竜世は、20 番項では矢上祭実行委員会から提出された活動報告について取り扱うと説明した。処分審査会での趣旨としては毎月事務局宛に活動報告を提出していただき、それを我々が議員に共有し、議員の皆様から質問があれば参考人招致として矢上祭実行委員会の方を全塾協議会にお呼びするという方向だったが、今月に関しては、初めから矢上祭実行委員会の委員長の方がいらっしゃることが分かっていたので、直接説明していただくのが良いかと思いこの議案を加えたと述べた。2 月期の活動報告を矢上祭実行委員会委員長に求めた。

矢上祭実行委員会委員長 溝口大智は、2 月期に関して、役員と一般委員の 2 つに分けて説明するとした。まず役員の活動については、共有したスライドの通りではあるが、矢上祭のテーマや新歓、ロゴについて会議を開き考えたと述べた。時系列が若干前後してしまうが、テーマに関してはまず役員会の方で案を出した後、全体会議で一般委員からも案を出し、それを次の役員会で選別して、最終的に全体会議で投票をとって決定するという流れだと説明した。そうして決定したテーマが「Re born」であると報告した。決定したテーマが報告書に書けていないのは、3 月の初めの全体会議で決定したためであると付け加えた。ロゴに関しては、本年度も矢上祭実行委員会のロゴを作るということで決定したが、誰がどういったものを作るのかはまだ決まっていないと述べた。ロゴはパンフレットやホームページに載せる予定であると説明した。また、2 月から新入生歓迎会に向けての活動が始まっていて、2 月の段階では矢上祭実行委員会に入会したい学生に提出を求めているエントリーシートのフォームを作成したと述べた。さらには、処分が下った後の改善案や、新しいコロナ規則、飲酒規則を作成したほか、ミスコンの件でご指摘いただいていた株式会社エイジエンターテインメントとの面談を関係者(委員長、執行部、ステージ局長、ミスコン企画長)で行ったと報告した。

塾生代表 山田健太は、今処分案について色々と検討していただいていると思うが、説明していただいたことは基本的に役員の方とお話しして決めていることかと質問した。

溝口は、先ほど説明したことと、新しいコロナ規則、飲酒規則は執行部の 7 人で原案をつくり、役員会で疑問点や改善点がないかを確認したと述べた。その作成に一般委員が関与していることはないが、新しいコロナ規則、飲酒規則に関しては決まったものを全体会議で説明し、一般委員に周知したと付け加えた。

山田は、お願いにはなるが、19 番項にて 2 つほど持ち帰っていただくという話をしたものについて、ぜひ一般委員もある程度交えて話していただく方が良いのではないかと述べて。今自分たちの団体がどういう状況にあるのかということは溝口さんたちだけで抱える問題ではないとしたうえで、周知するのは難しいことだとは思いますが皆で一緒に考えていこうという雰囲気づくりをぜひしていただきたいとした。LINE を使わないようにするためには、普段 LINE を使っている人たちから、こういうことで LINE を使いがちになってしまうからこういう対策をしたほうが良い等の意見が聞けると良いのではないかと述べた。それを踏まえ、例えば各自対策案を 1 つ作ってきてもらい、全体会議でいわゆるブレイクアウトルームのようにグループワークをするなどして、全体を巻き込んでいただきたいとした。溝口はかしこまりましたと述べた。

山田は、引き続きこういった活動報告を肅々とよろしく願いますと述べた。

(21) 全塾協議会事務局の性暴力防止のための活動に関する議案

事務局長 清瀬竜世より、全塾協議会事務局の性暴力防止のための活動に関する議案が上程された。

塾生代表 山田健太は、性暴力に関するワークショップが Safe campus 主催であることを明記するのかわねた。清瀬は、そのことを明記すると回答した。

山田は、Safe campus の都合により月一回の開催が厳しくなってしまう場合の対策を検討すべきだと述べた。

芝学友会会長 横山さくらは、主催者を明記することよりも、ワークショップの内容が重要ではないのかと述べた。山田は、ワークショップの参加枠が 1 回につき 20 名で年間 240 名であるが、傘下団体数が 190 あるため、参加できない方が多くなってしまうと述べた。

事務局長 清瀬竜世は、本議案を取り下げた。

(22) 塾生代表 2021 年度全塾協議会第三次補正予算

塾生代表 山田健太が塾生代表 2021 年度全塾協議会第三次補正予算についての説明を行った。湘南学祭実行委員会と新歓実行委員会のリーダーズキャンプを踏まえた補正予算であると説明した。また、所属団体移転資金は支出項目に入れなくてよいのか尋ねた。事務局員 関田大輝は、予算では団体の割り振りを記載しているが、意図的に所属団体移転資金は記載していないと述べた。

全塾協議会は全会一致でこれを可決し、塾生代表 山田健太は本議決を承認した。

(23) 全塾協議会事務局の所属団体に関する議案

全塾協議会事務局より所属団体に関する議案が上程された。

事務局長 清瀬竜世は、23 番項では矢上祭実行委員会の契約の件に関する処分の 3 番項について取り扱うと説明した。

矢上祭実行委員会委員長 溝口大智は、委員の活動を日常的に精査する方法を考えるとという点について、先ほどの屋外局の会食に対する処分と同じように、まず委員の活動や話し合っている内容を確認するために Slack を用いて監視する方法を使おうと思っていると説明した。山田さんからご指摘いただいた通り、上司にあたる人が毎回確認することや、全体会議で定期的に LINE は使わずに Slack で連絡するように呼び掛けることを追加したうえで、もう一つ実際の活動内容の精査というところで、こちらも屋外局の会食の処分に対するところで活動報告書を提出する義務があったように、実際の活動内容については活動報告書を提出するという形をとりたいと思っていると述べた。

塾生代表 山田健太は、今話にあがった活動報告書というのは誰から誰へのものかと質問した。溝口は、会食の処分の第 4 項にあたるもので、2 月分の活動報告はメールでさせていただいたと述べた。

山田は、つまり矢上祭実行委員会から全塾協議会への活動報告書を今念頭に置いて話しているということかと質問した。溝口はそうだと述べた。自身が今回全塾協議会に提出したのも局長から活動内容の報告を受けて、自身がとりまとめるという形で提出させていただいたとした。矢上祭実行委員会として委員長が委員の活動を監視するという意味では、まず第一段階で自身が活動内容をしっかりと確認し、それを全塾協議会にお伝えするという流れをとろうと思っていると述べた。

山田は、まず一般委員から委員長へ活動報告書に近いものを出してもらい、それを委員長のほうでとりまとめて全塾協議会向けの活動報告書をつくるという認識で合っているかと質問した。溝口はそうだと

述べた。

山田は、それぐらいしていただけるのであれば良いのではないかと思うと述べた。そのうえで、形骸化しない仕組みを考えてほしいとし、活動報告書を逐一書くということはまあまあ面倒なことであるため、テンプレートをつくるなどして、どういったことを書くのか委員にしっかりと理解してもらうことを徹底してほしいと付け加えた。溝口はかしこまりましたと述べた。

山田は、今どこか文言であがっているかと質問した。溝口は、屋外局の会食に対する処分の第4項の活動報告書と兼ねているため、文言としてはまだ提出していない状況だと述べた。山田は、方針としては結構なので、23番項で取り扱った処分の3番項にあたる監査の仕組みについては、形骸化しない仕組みも添えたうえで改めて提出していただくという形でもよろしいかと確認した。スライド形式でも結構だと付け加えた。溝口はかしこまりましたと述べた。

議長 横山さくらは、承認は来月改めてとるとということかと確認した。山田は、賛否でよろしいか、または取り下げたほうがよろしいかと清瀬に質問した。清瀬は、議決をとっていただくのが一番良いかと思うと述べた。

横山は、これで承認するか、来月また文面で提出してもらうかで議決をとるとした。山田も、来月に延ばすなら反対、口頭でも大丈夫なら賛成でお願いしますと述べた。

全塾協議会はこれを全会一致で否決した。

横山は、また来月よろしく願いいたしますと述べ、溝口はかしこまりましたと述べた。

8. 連絡事項

塾生代表 山田健太は、4月27日の18時ごろから4月期全塾協議会定例会の対面での開催を検討していると述べた。日吉キャンパスでの開催を前提とし、準備を進めていくと述べた。

9. 閉会宣言

事務局長 清瀬竜世が、閉会を宣言した。